小児科 病気のコラム

熱性けいれんについて

熱性けいれんとは？

- 熱性けいれんは、乳幼児期（生後 6 か月から 5 歳くらいまで）に 38℃以上の発熱に伴って起こるけいれんで、比較的多くのお子さんにみられる病気です（有病率は 7～10%）。
- 突然白目をむいて、全身が突っ張ったり、ガクンガクンと手足をふるわせたりします。
- 典型的な熱性けいれんの発作は、数分間（多くは 1～2 分）で自然におさまり、発熱後 24 時間以内に 1 回のみ起こり、左右対称性です（単純型）。
- 熱性けいれんでは通常、脳障害や知能低下を起こすことはありません。
- 熱性けいれんを起こしたお子さんのうちで再発がみられるのは約 30% です。

チェックしましょう けいれん時の対処法

- □ まずは、落ち着いて、お子さんを安全な場所に移します。けいれん時は嘔吐することがあるため、吐いたもので気道をふさがないようにお子さんの体を横向きにして寝かせましょう。
- □ けいれん時に舌をかまないようにと無理やり口の中に手や物を入れたり、顔色が悪いからといっていきなり人工呼吸をすることはやめましょう。
- □ けいれんが始まった時刻や続いた時間、けいれん中の様子（手足のガクガクが左右対称か片方かなど）などを可能な限り覚えておいてください。体温を測り発熱の有無を確認しましょう。
- □ けいれんが 5 分以内におさまって、その後に意識がはっきりしている状態（呼びかけに反応し、しっかり視線が合い、命令に従う）であれば、急ぐ必要はありません。発熱の原因を明らかにし、その治療のために医療機関を受診してください。
- □ けいれんが 5 分以上続く場合は、救急車を呼んで医療機関を受診してください。けいれんが 5 分以内に止まっても呼びかけに反応しない、けいれんを繰り返す場合もすぐに医療機関を受診してください。

自由が丘メディカルプラザ

ご予約お問合せ TEL03-5731-35

小児科 齋藤（さいとう） 義弘（よしひろ）

◇東京慈恵会医科大学卒
◆日本小児科学会専門医
◆日本感染症学会専門医

熱性けいれんの予防について

発熱時けいれんを起こしすいお子さんには、ジアゼパム坐薬（ダイアップ坐薬®）の投与で、熱性けいれんを予防することが可能です。

1）予防的な投与が望ましいお子さん

「遷延性発作（15 分以上）の既往がある場合」または、「下記のうち 2 つ以上を満たした熱性けいれんが 2 回以上反復した場合」に、ジアゼパム坐薬（ダイアップ坐薬®）を投与します。

- □ ① 焦点性発作または 24 時間以内に反復する
- □ ② 熱性けいれん出現前より存在する神経学的異常・発達遅滞
- □ ③ 熱性けいれんまたはてんかんの家族歴
- □ ④ 生後 12 か月未満
- □ ⑤ 発熱後 1 時間未満での発作
- □ ⑥ 38℃未満での発作

2）ジアゼパム坐薬（ダイアップ坐薬®）の使用法

熱性けいれんは体温が急激に上昇するときに起こりやすいので、37.5℃を超える発熱に気づいたときには、できるだけ速やかにあらかじめ処方された坐薬を１個肛門内に深めに挿入してください。そして 38℃以上の発熱が続く場合には、８時間後にもう一度だけ同量の坐薬を挿入してください。２回目挿入後は、発熱が持続しても、原則としてそれ以上坐薬を使用する必要はありません。

発熱によるお子さんの苦痛を和らげるために解熱剤を使用することは可能です。ただしジアゼパム坐薬に解熱剤の坐薬（アンヒバ坐薬®など）を併用する場合には、30 分以上投与間隔をあけてください。両方の坐薬を同時に挿入すると、ジアゼパムの初期の吸収が阻害される可能性があります。

ジアゼパムは脳や神経に作用する薬なので、お酒に酔った様にふらついたり、長時間寝てしまったり、逆に、興奮して寝なくなったりすることが一時的に起こります。

ジアゼパムの予防投与は最終発作から 1~2 年、もしくは 4~5 歳まで行うのがよいと言われています。

自由が丘メディカルプラザ
ご予約お問合せ TEL03-5731-35
小児科 齋藤 義弘（さいとう よしひろ）
◇東京慈恵会医科大学卒
◆日本小児科学会専門医
◆日本感染症学会専門医